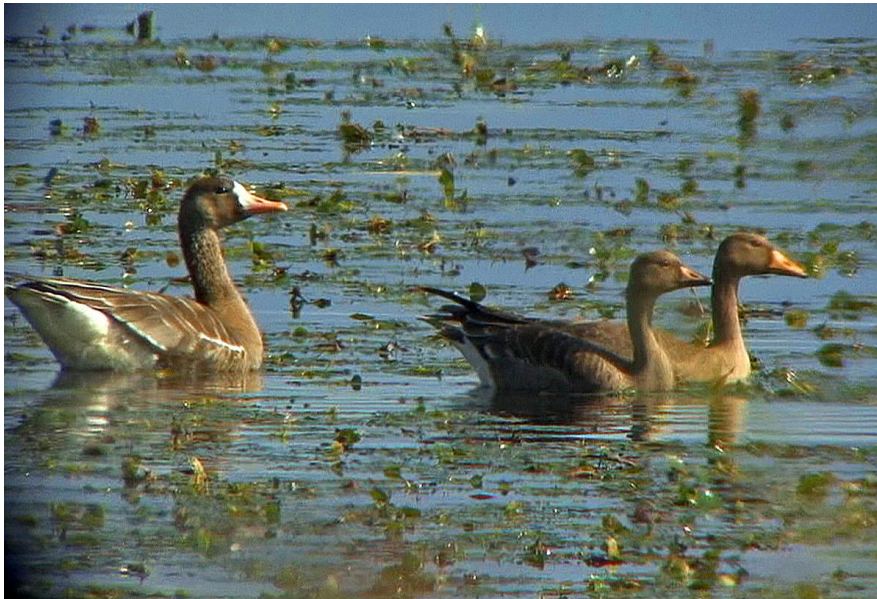


マガン（カモ科） 全長72センチ

「棹になり かぎになり 渡る雁 おもしろや」

文部省唱歌「雁がわたる」の一節。空を飛ぶ雁の列、またはその姿を雁行と呼び、秋の歳時記となっています。毎年、晩秋と早春の渡りの時期には、大仙市の上空を横切る雁行を眺めることができます。

数十羽から多い時には数百羽の大集団で、見事に統率された飛行は見るだけで大自然の躍動感が伝わってきます。今の時期はマガン、ヒシクイが西から東の方角へと進み、奥羽山脈を越え宮城県の伊豆沼周辺を目指します。



マガン、右2羽が幼鳥でクチバシの付け根がまだ白くなっていません。

これまで、秋の渡りで大仙市内に降り立つことは殆どありませんでした。

10月1日、大浦沼でマガンの親子3羽がのんびり水草を食べていたが、上空を見上げ仲間がやってきたのでしょうか、直ぐに飛び立ってしまった。



マガン成鳥。胸の黒い帯が特徴。



ヒコバエの田んぼで、落穂を探しているのでしょうか。

近くの田んぼに降り立ったのは7羽で、一緒に餌を啄ばんでいた。マガン5羽とヒシクイが2羽。

刈り取りが終わった後に生えるヒコバエは、殺風景な田んぼに鮮やかな彩りを添えています。後方の線路を新幹線こまちが横切るなど、今の季節だけ一瞬の風景であった。



マガンより体がやや大きい、ヒシクイの成鳥。



遠くを新幹線こまちが通り過ぎて行った。